



CUCホスピス

活動レポート

2024

ACTION REPORT 2024

CUC HOSPICE



MISSION

「前を向いて生きる」を支える。

ReHOPE



CONTENTS

- 04 **OVERVIEW** 実績ハイライト
- 05 **MESSAGE** 代表メッセージ
- 06 ご入居者さまの希望を生み出す4つの価値
- 08 ケアの質を向上させる取り組み
- 09 **ACTION 01** 専門性と人間性を高める研修
- 10 **ACTION 02** 生活の質を高めるリハビリテーション
- 11 事業所一覧
- 12 会社情報

本レポートの目的

本レポートは「『前を向いて生きる』を支える。」を使命に掲げ、がん末期や神経難病の方のためのホスピス型住宅や、施設居住者に向けた訪問看護・介護事業所を運営する株式会社シーユーシー・ホスピスの一年間の取り組み実績と今後実現を目指す方向性についてまとめたファクトブックです。

当社の企業情報等の提供のために作成されたものであり、国内外を問わず、当社グループの発行する株式及びその他有価証券の勧誘を構成するものではありません。本レポートでは過去と現在の事実のみならず、将来の見通しに関する記述が含まれています。そのため、一定のリスクや不確実性を内包しており、過度に依拠することのないようご注意ください。本レポートには、当社が事業を行っている市場に関する情報を含む、外部の情報源に由来し又はそれに基づく情報が記述されています。これらの記述は、本資料に引用されている外部の情報源から得られた統計又はその他の情報に基づいており、それらの情報について当社は独自に検証を行っておらず、その正確性又は完全性を保証することはできません。当社は、本レポートに含まれるいかなる情報についても、今後生じる事象に基づき更新や改訂の義務を負うものではありません。

※データの報告対象期間 2023年4月～2024年3月
(必要に応じて当期間の前後についても言及しています)

OVERVIEW

実績ハイライト

CUCホスピスは、がん末期や難病など、医療依存度が高い方のケアに特化したホスピス型住宅「ReHOPE」を運営し、その施設内で訪問看護・訪問介護を提供しています。2023年度の私たちの歩みを数値で振り返ります。 ※1 2024年3月31日時点 ※2 2023年4月1日～2024年3月31日の累計

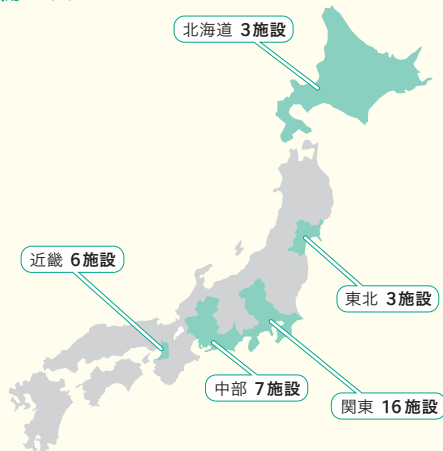
サービスの拡大

施設数 ※1
36 施設
 2022年度 29 施設

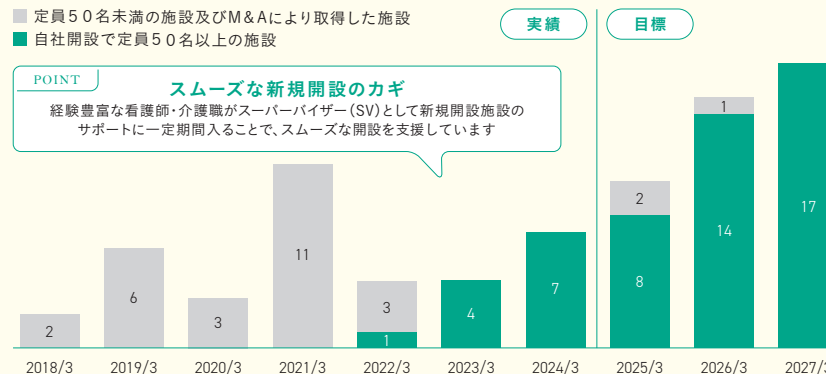
新規開設数 ※2
+7 施設
 2022年度 4 施設

定員数 ※1
1,520 名
 2022年度 1,145 名

展開エリア ※1



新規開設または取得のホスピス施設数推移（実績と目標） ※1

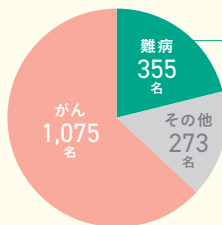


POINT **スムーズな新規開設のカギ**
 経験豊富な看護師・介護職がスーパーバイザー(SV)として新規開設施設のサポートに一定期間入ることで、スムーズな開設を支援しています

1. マクロ環境や規制動向など、本レポート発刊日時点において入手可能な情報に基づき、一定の仮定や前提の下で当社グループが設定した目標値であり、将来の目標数値の実現を保証するものではありません。 2. 土地または建物の賃貸借契約が締結済みの案件を集計していますが、将来の目標数値の実現を保証するものではありません。

ご入居者さまのケア

疾患別
 ご入居者さま数 ※2



難病の主な内訳

- パーキンソン病関連疾患 143名
- 筋萎縮性側索硬化症(ALS) 92名
- 多系統萎縮症 48名
- 頸髄損傷 20名

※ほか脊髄小脳変性症、プリオン病、重症筋無力症、進行性筋ジストロフィー症、多発性硬化症など幅広い疾患を受け入れています

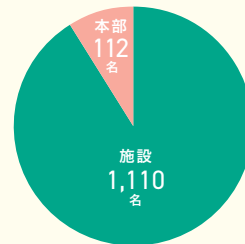
人工呼吸器を装着されている方
 (2024年4月末時点) **113**名

要介護4・5の
 ご入居者さまの割合 ※1 **63.2** %
 2022年度 59.5 %

お看取り数 ※2 **1,134** 名
 2022年度 817 名

採用・働き方データ

スタッフ数 ※1
1,222 名
 2022年度 957 名



採用数(新卒・中途) ※2
663 名
 2022年度 475 名
※契約社員、アルバイトを除く

平均年齢 ※1
42.8 歳
 2022年度 42.9 歳

女性比率 ※1
78.5 %
 2022年度 77.9 %

女性管理職比率 ※1
54.7 %
 2022年度 64.7 %

ケアの質向上のために
 実施した合計研修時間 ※2 **15,622** 時間

質の高いケアを土台に「ありがとう」の総和を増やす

CUCホスピスおよびReHOPEをご支援いただき、誠にありがとうございます。当社は、日々多くの方々に支えられながら、成長と進化を続けております。この活動レポートを通して、私たちの活動と未来への展望についてお伝えします。

過去最多の年間7拠点の新設 ご入居者さまとご家族さまの 「ありがとう」をより多く

2023年度は、過去最多となる7拠点を新設し、1,520名のご入居者さまのお受け入れが可能になりました。続く2024年度は10施設の開設を予定しています。この拠点数の成長は、より多くの方々から「ありがとう」という感謝の言葉やお気持ちをいただくための基盤づくりです。「ありがとう」の言葉こそが事業の原動力であり、私たちが提供するケアの価値を示すものと考えています。

私たちは、医療依存度が高い方々に寄り添い、安心して暮らせる場を提供しています。たとえば、がん末期の方はもちろん、人工呼吸器を使用される方や神経難病を抱える方など、他施設では受け入れの難しい方も積極的に受け入れることで、ご本人やそのご家族の負担を軽減し、感謝の言葉につながるケアを提供しています。

コンプライアンスの徹底、 研修の充実で、質の高いケアを実現

2023年度より施設数の拡大を加速させるとともに、①**コンプライアンスの徹底**、②**ケアの専門性向上**、③**現場力の強化**の3つの視点で、ケアの“量と質”の両立に注力してまいりました。

コンプライアンスの徹底については、ご入居者さまに合わせた適切な看護介護計画を策定し、診療報酬・介護報酬のルールに基づいた運営を徹底しています。また専従の監査チームを設置し、定期監査および抜き打ち監査を実施して業務の透明性と信頼性を高めています。

ケアの専門性向上については、認定看護師による専門研修を積極的に実施しています（P.09参照）。2023年度は人工呼吸器対応の研修を開始したほか、資格取得支援制度を通じて専門家の育成を進め、スタッフの知識・スキル向上を図りました。2024年度は「ACP（アドバンス・ケア・プランニング）」や「緩和ケア」分野の研修も増やしています。今後は、終末期医療の分野で、卓越した専門知識を持つ医師を招いた研修も行う予定です。

現場力の強化については、日々の業務の改善アイデアを現場のスタッフがを見つけ改善していく、ボトムアップ型の改善活動「WeCanプロジェクト」を2024年7月に開始しました。これはご入居者さまに日常で喜んでいただけるような小さな工夫や日常的に感じているちょっとしたストレスを減らす工夫など、「微差」を積み重ねていく活動です。2024年11月末時点で214件の具体的な改善案が生まれ、実践に移されています。

このように、ご入居者さま一人ひとりの生活を豊かにする取り組みを進化させ、組織全体で共有することで、質の高いケアの提供を実現していきます。

今後さらに求められる「第三の生活の場」 より専門性を高め 一人ひとりに寄り添うケアを

医療制度の変化や社会のニーズに応じ、人生の締めくくりの時間を過ごす場所として、病院でも自宅でもない、「第三の生活の場」としてのホスピス型住宅のニーズはますます高まっています。今後も、専門性を高める研修や現場力強化の取り組みを通じて、質の向上を図り、一人ひとりに寄り添うケアを提供していきます。

私たちは、挑戦を続けることで多くの方々に安心と喜びを届け、感謝の総和をさらに増やしてまいります。今後とも温かいご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



株式会社シーユーシー・ホスピス
代表取締役社長

田邊 隆通

Profile: 株式会社リクルート、日本福祉総合研究所株式会社、HRソリューションズ株式会社を経て、2015年に株式会社シーユーシーに入社。同社取締役として国内・海外の医療機関事業を統括。2021年にソフィアメディ株式会社取締役就任。2024年6月より現職。

ご入居者さまの希望を生み出す 4つの価値

1

「食べる」

食は、自分らしく生きるために欠かせません。ご状態に合わせてながら、お好きなものを味わっていただくための工夫をしています。

心に残る乾杯

ReHOPE 星ヶ丘 (Yさま・80代・下咽頭がん)

日本酒が大好きで、銘柄や飲み方にこだわりがあったYさま。ある日、娘さまから「お酒を飲ませてあげたい」という要望がありました。誤嚥のリスクが高い状態でしたが、ご本人やご家族の要望に応えようと試行錯誤を始めました。Yさまは口の中の乾燥や汚染がひどく、痛みがあったため、まずは口腔ケアや保湿をすることに。口の中の環境が整ったタイミングでご愛用の徳利とお猪口、お気に入りの銘柄の熱燗をご用意しました。お酒をスポンジに浸して口の中に含ませ、「日本酒の味はわかりますか？」と問いかけると、Yさまはしっかりと頷かれました。翌日は念願だった娘さま夫婦と3人で乾杯。翌日にご逝去されましたが、ご家族や私たちの心に残る乾杯となりました。



2

「挑戦する」

絵を描きたい、メイクをしたい、買い物をしたい。挑戦や楽しみを通して、ご入居者さまの生きがいを取り戻すお手伝いをします。

病とともに自分らしく生きる

ReHOPE 東戸塚 (Uさま・70代・パーキンソン病)

Uさまは、パーキンソン病を患いながらも、居室の飾りつけを楽しみにしながら過ごしていました。しかし、病状の進行により動作が不安定になり、飾りつけの最中に転倒することが増えていきました。ご本人やご家族との話し合いの末、飾りつけを制限することに。一番の楽しみがなくなり、Uさまは元気をなくしてしまいました。そこで、Uさまを元気づけるために、クリスマス会でダンスコーナーを企画しました。実はもともとダンス講師として活躍されていたUさま。大喜びで準備を始め、何度も練習を重ねました。本番では、マイケル・ジャクソンの「Beat It」を踊り、会場からは大きな歓声が。晴々とした表情を浮かべたUさまの姿を見て、ご本人の「挑戦の機会を大切にすること」の意義を実感しました。



「食べる」「挑戦する」「つながる」「四季を感じる」の4つの価値の提供を通して、ご入居者さまの希望を生み出しているReHOPE。それぞれの意義と各施設のエピソードをご紹介します。



「つながる」

ご入居者さまやご家族の「大切な人とつながりたい」という想い。ケアやレクリエーションを通して、その想いを実現しています。

つながりを尊重し、満足のいくケアを

ReHOPE 吹田（1さま・80代・筋萎縮性側索硬化症）

入居時はひとりで排泄ができたものの、身体機能の衰えにともない、排泄が難しくなってしまった1さま。ベッドの横にポータブルトイレを置き、スタッフの介助の上で排泄をしていただくことになりました。ある日、スタッフが介助をしていると、配偶者さまが「このままだと夫に何もしてあげられない。私も一緒に介護をしたい」と涙ながらにおっしゃいました。私たちはこの想いを尊重し、1さまの介助をご家族と協力して行うことに。病状の進行にともないオムツを着用することになったときには、オムツ交換の方法を配偶者さまにお伝えしました。後日「オムツ交換が上手にできるようになりました。みなさんのおかげです、ありがとう」とおっしゃった配偶者さま。その横で、1さまも穏やかな表情を浮かべていらっしゃいました。



「四季を感じる」

病状が進行しても移りゆく季節を感じていただくために、季節に合わせたお食事の提供やレクリエーションを実施しています。

笑顔あふれる夏祭り

ReHOPE 松戸

2024年の夏、病気の影響で自由な外出が難しい方にも夏の風物詩をお届けするため、全国各地の施設で夏祭りが開催されました。ReHOPE 松戸では、スタッフが木製のおみこしを担いで施設内を練り歩き、居室を訪問。施設内にはかき氷、焼きそば、チョコバナナ、射的、わなげといった屋台が並びました。夕方には、座ったままでも楽しめる盆踊り大会を実施し、懐かしい歌謡曲とともに夏の風物詩を満喫できるひとときをご提供しました。ご入居者さまからは「昔の夏祭りによく行ったことを思い出して懐かしい気持ちになった」「孫が来てくれて、一緒に楽しい時間を過ごせて嬉しかった」といった感想が寄せられました。日々の暮らしのなかで、季節を楽しんでいただく大切さを実感した一日でした。



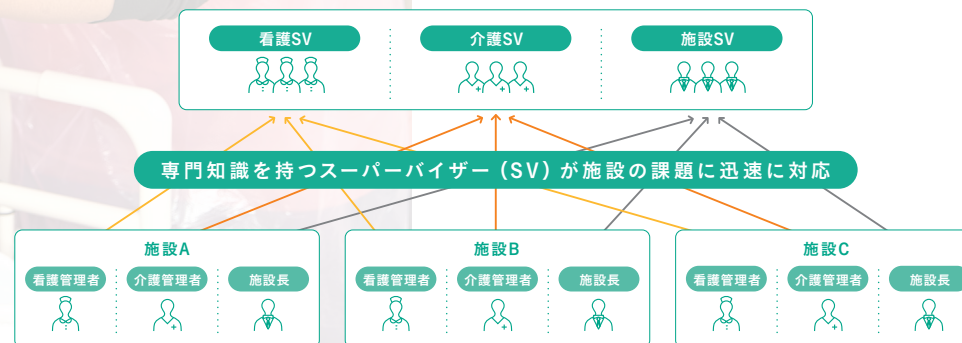
ケアの質を向上させる 取り組み



CUCホスピスでは、ご入居者さまに質の高いケアを届けるために、「施設の運営支援」「研修による技術向上」「リハビリテーションの強化」に力を入れています。施設のサポート体制(下図参照)については、全国の7エリアに、施設運営・看護・介護の専門性があるスーパーバイザー(SV)を配置。施設運営やケアの課題があった際に、迅速にサポートできる体制を築いています。研修による技術向上(P.09参照)では、ビジネス・コミュニケーション・医療・介護それぞれの観点から、人間性と専門性を高いレベルで兼ね備えた人材の育成に力を入れています。リハビリテーションの強化(P.10参照)に関して、終末期の方へのリハビリテーションは、生活の質を向上させ、豊かな生活を送る上では欠かせないと私たちは考えています。

この章では、2023年度に特に注力した教育研修とリハビリテーションに焦点を当て、私たちの取り組みをご紹介します。

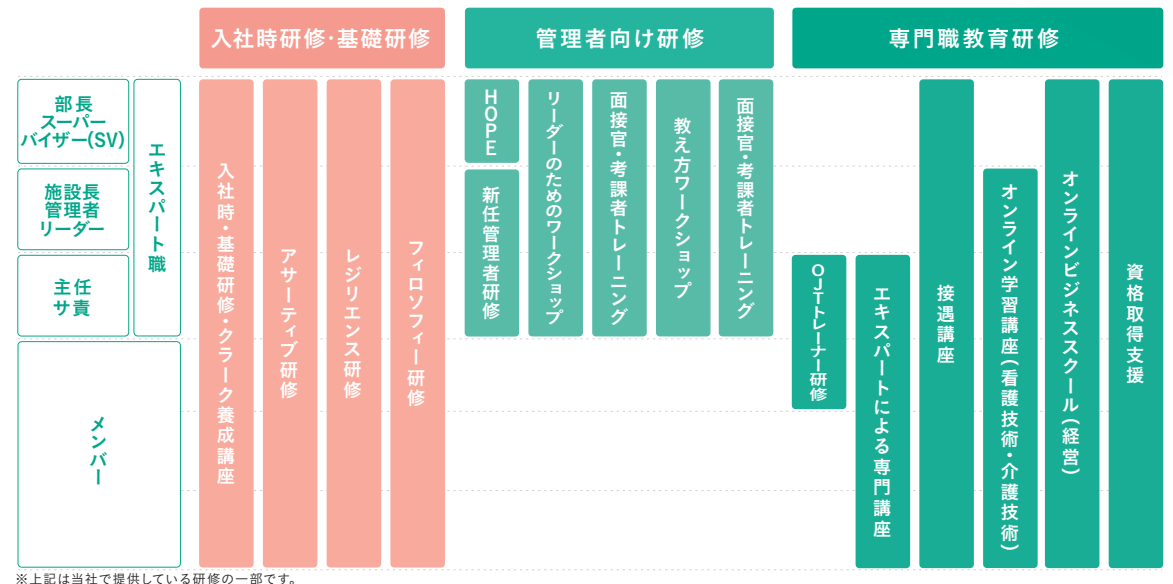
ケアの質向上のための施設サポート体制



各エリアの看護・介護・施設管理の領域別にスーパーバイザー(SV)が配置され、各施設での課題発生時に相談できる体制が敷かれている。

専門性と人間性を高める研修

CUCホスピスでは、スタッフの専門性と人間性を高める研修を実施しています。2023年度からは、豊富な経験と知識を持つ看護師による専門研修を開始。医療依存度が高い方が安心して暮らせるように技術の向上に努めています。



ご入居者さまの命を守るために。専門教育でケア技術向上を目指す

私はかつて病院で20年以上にわたってICUの認定看護師として働いており、そこで人工呼吸器に関する専門知識を修得しました。その知識や経験を生かし、2023年9月に「人工呼吸器」をテーマとした専門研修を立ち上げました。当社が運営するReHOPEには、人工呼吸器を使用している方が130名ご入居されています。(2024年11月末時点)。人工呼吸器を使いながら日常生活を送る方が多い一方で、まだまだ在宅医療分野での人工呼吸器の活用方法や教育方法に伸びしろを感じたのがこの研修を立ち上げたきっかけです。

研修は「命を守る安全管理」、人工呼吸器をつけた状態での移動や食事などの「動作の支援」の2つを大きな柱として、現場スタッフに伝えたいことをまとめました。さらに各施設でも指導できるよう、動画を中心とした研修パッケージも作成。これを活用し、勉強会を開く施設も増えてきました。2024年度からは現場の「ケア技術をさらに高めたい」という声に応えるため、認定看護師による「緩和ケア」の専門研修を開始。今後は、それぞれの認定看護師の力を借りながら「ACP※」「認知症」にもテーマを広げていきます。私は看護師時代の経験から、「今現場で起きていること」から学ぶことが多いと感じています。今後も現場で生まれる疑問や課題に対し、サポートする仕組みを築いていきたいです。

※ACP(Advance Care Planning): 終末期にどんな治療やケアを望むか患者と医療関係者が事前に話し合うプロセス



運営支援部
ケア技術向上推進チーム
リーダー

河合 章子



病気やケガで体が不自由になった方が、日常的な動作を取り戻すために行われるリハビリテーション。終末期のがん患者の3分の2がリハビリテーションを望んでいるものの、満足のいくリハビリテーションを受けられていないという研究結果があります^{*}。身体機能を維持するリハビリテーションは、終末期の方の尊厳を取り戻し、生活の質を高めるためにも大切です。当社では、専門チームを組成し、リハビリテーションの提供に尽力しています。

^{*}Hasegawa, Takaaki et al. "Unmet need for palliative rehabilitation in inpatient hospices/palliative care units: a nationwide post-bereavement survey." Japanese journal of clinical oncology vol. 51,8 (2021): 1334-1338. doi:10.1093/jjco/hyab093

リハビリテーションを受けた方のADLの変化

41.6 点/100点 → 46.3 点/100点

DATA

パーセルインデックス (BI) ^{*}で評価 (n=156)

^{*}パーセルインデックス (BI): 日常生活動作 (ADL) を評価するための指標0点 (完全介助が必要) から100点 (完全に自立している) までのスコアで表されます。 ※集計期間: 2022年8月1日~2024年10月31日

ReHOPEのご入居者さま156名を対象に、リハビリテーション介入前後で統計学的分析を実施し、有意な差が認められました (p<0.05)。よって、ReHOPE入居後にリハビリテーションを実施することで、ADLが維持できることが示唆されました。

終末期のリハビリテーションは、「前を向いて生きる」ために欠かせない

リハビリテーションはこれまで、病気やケガで体が不自由になった方が、日常生活を送れるように病院で行われることが一般的でした。そのため、「終末期の方へのリハビリテーション」といっても、ピンと来ない方が少なくありません。しかし実際には、回復が見込めない終末期の方であっても身体機能や日常生活動作 (ADL) の回復や維持が期待でき、さらには生活の質 (Quality of Life: QOL) が改善することもあります。私たちは、「心身ともに豊かな終末期を送るためにはリハビリテーションが不可欠」と考え2023年に専門

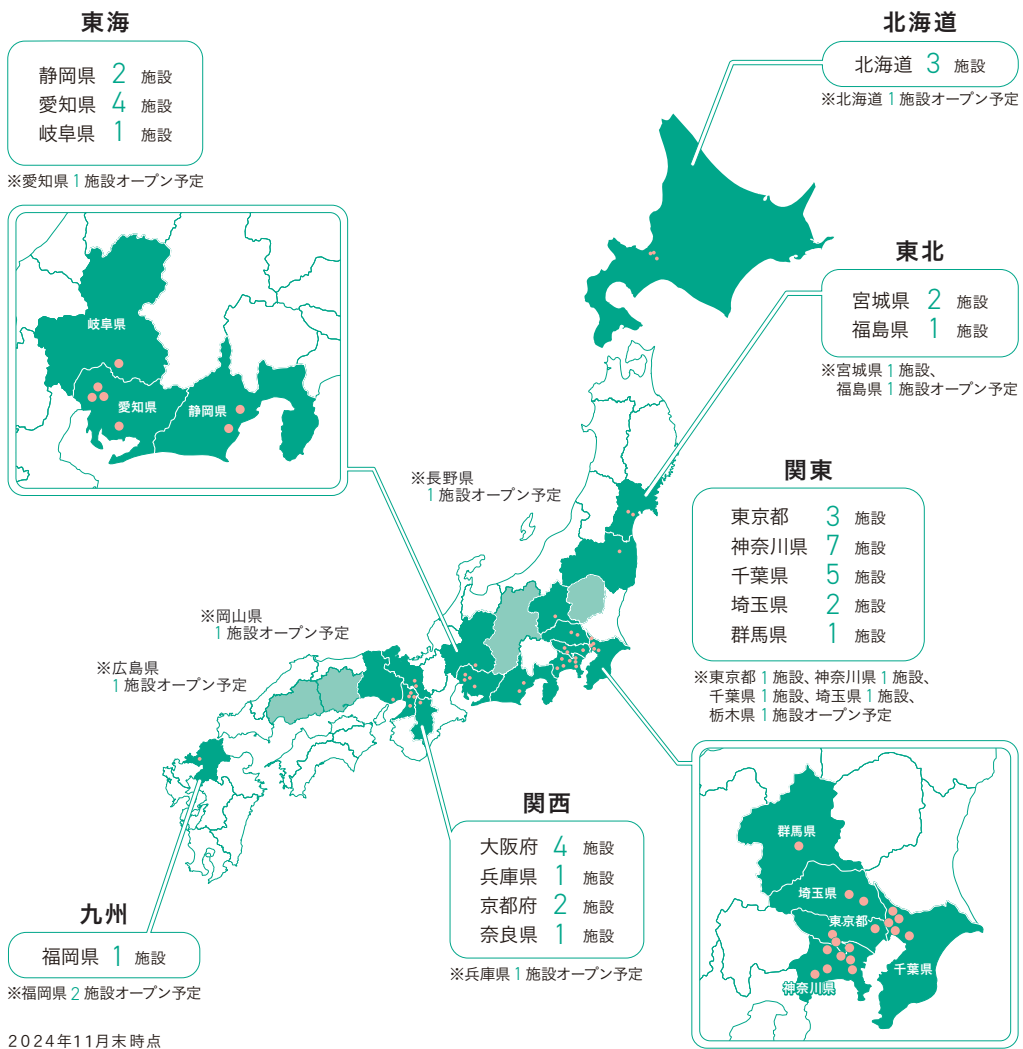
チームを立ち上げ、セラピストの人数を増員。新規施設においては、リハビリテーションに活用できるスペースを新たに設けました。ReHOPEでは、日常生活動作 (ADL) だけでなくその人にとって価値のある行為を大切に、一人ひとりの「やりたいこと」の実現を目指すリハビリテーションを提供しています。たとえば、飼犬を抱っこするために重さのある枕を抱き上げてみたり、缶ビールのプルタブを開けるためにコインを裏返したりと、動作の練習を重ねていきます。引き続き、セラピストの採用を強化し、より充実したリハビリテーションの提供に力を入れていきます。これからもご入居者さまとご家族の「前を向いて生きる」という想いを、質の高いリハビリテーションでサポートしていきたいです。



運営支援部
生活リハビリ支援チーム
リーダー

北裏 真己

私たちはケアの質を追求し続け、「希望が生き交う生活の場」を広めていく。



2024年11月末時点



詳しい施設情報はWebサイトをご確認ください

- 北海道**
 - ReHOPE 札幌厚別
 - ReHOPE 札幌北
 - ReHOPE 札幌西
 - ReHOPE 旭川神楽 ※新施設
- 宮城県**
 - ReHOPE 仙台青葉
 - ReHOPE 仙台若林
 - ReHOPE 大崎古川 ※新施設
- 福島県**
 - ReHOPE 郡山
 - 福島県郡山市 ※新施設
- 群馬県**
 - ReHOPE 高崎
- 栃木県**
 - 栃木県小山市 ※新施設
- 埼玉県**
 - ReHOPE 浦和美園
 - 西上尾ホスピスケアそよ風 (看護クラーク西上尾)
 - 埼玉県草加市 ※新施設
- 千葉県**
 - ReHOPE 柏南増尾
 - グッドタイムホーム・新検見川 (看護クラーク新検見川)
 - ReHOPE 松戸
 - ラプレ西船橋 (看護クラーク西船橋)
 - 千葉県成田市 ※新施設
- 東京都**
 - ReHOPE 墨田
 - ReHOPE 町田相原
 - ReHOPE 南町田
 - 東京都足立区 ※新施設
- 神奈川県**
 - アシステッドナーシング輝の社 (看護クラーク横浜瀬谷)
 - ReHOPE 伊勢原
 - イリーゼさぎぬま・新館 (看護クラーク鷺沼等)
 - SOMPOケアラヴィーレレジデンス橋本 (看護クラーク橋本)
 - ReHOPE 秦野
 - ReHOPE 東戸塚
 - ReHOPE 保土ヶ谷
 - ReHOPE 武蔵中原 ※新施設
- 長野県**
 - ReHOPE 松本 ※新施設
- 静岡県**
 - ReHOPE 静岡葵
 - ReHOPE 駿河西
- 愛知県**
 - ReHOPE 岡崎
 - ReHOPE 新栄西館
 - ReHOPE 新栄東館
 - ReHOPE 星ヶ丘
 - ReHOPE 大高 ※新施設
- 岐阜県**
 - ReHOPE 多治見
- 京都府**
 - ReHOPE 京都南
 - ReHOPE 京都太秦
- 奈良県**
 - ReHOPE 奈良
- 大阪府**
 - ReHOPE 御殿山北館
 - ReHOPE 御殿山南館
 - ReHOPE 堺北
 - ReHOPE 吹田
- 兵庫県**
 - ReHOPE 神戸
 - ReHOPE 姫路 ※新施設
- 広島県**
 - 広島県広島市 ※新施設
- 岡山県**
 - ReHOPE 岡山 ※新施設
- 福岡県**
 - ReHOPE 博多筑紫
 - ReHOPE 福岡東 ※新施設
 - 福岡県東久留米市 ※新施設

CORPORATE PROFILE

会社情報

社名	株式会社シーユーシー・ホスピス
設立	平成29年3月
役員	代表取締役会長 濱口 慶太 代表取締役社長 田邊 隆通 取締役 Founder 吉田 豊美 取締役 桶谷 主税
資本金	1億円(資本準備金含む)
事業内容	ホスピス型住宅施設の運営 訪問看護事業所運営 訪問介護事業所運営 居宅介護および重度訪問看護事業所
主要 グループ会社	エムスリー株式会社 株式会社シーユーシー 株式会社シーユーシー・プロパティーズ 株式会社シーユーシー・フーズ ソフィアメディ株式会社 株式会社ネイチャー 株式会社ノアコンツェル その他シーユーシーグループ関連会社
所在地	東京都港区芝浦3丁目1-1 msb Tamachi 田町ステーションタワーN15階

コーポレートサイト
<https://cuc-hospice.com/>



CUC HOSPICE